

2022年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A) 成果報告書

(*本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます)

(適宜行追加可)

受入担当 教員	所属・職	大学院言語コミュニケーション文化研究科・教授
	氏名	于康
海外客員 教員	所属・職	西南大学(中国)・教授
	氏名	彭玉全
招聘目的	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 授業担当及び研究 2. 共同研究 3. 特別枠 (いずれかに○)	
招聘期間	2022年9月16日～2023年1月15日	
成果報告 以下の内容を記載して下さい。		
1. 授業担当及び研究 (1) 授業科目名	①ことばと文化(大学院言語コミュニケーション文化研究科前期) ②日本語教育トピックス(大学院言語コミュニケーション文化研究科前期) ③日本語と中国語の翻訳研究(大学院言語コミュニケーション文化研究科前期)	
(2) 授業担当の成果	①の「ことばと文化」は、「ことばと文化の関係を理解し、日本語と中国語の言語習慣を比較し、日中両国の言語によって表れる文化の特徴を把握する。日中両国の食文化、ビジネスマナー、中国人親族名称と呼称、人称代名詞の使用などの差異を読み解く。」ことを目的とし、②の「日本語教育トピックス」は、「第二言語習得の基本的な理論知識や、日本語教育の教授法、日本語の語彙・文法・聴解・会話・読解・作文などの授業のデザイン方法を学ぶ。」ことを目的とし、③の「日本語と中国語の翻訳研究」は、「翻訳の理論、原則、技法及び日中翻訳の問題点などを説明、分析した上で、日本語と中国語の翻訳作品の解説や翻訳実践などを通して、日中間の翻訳に関わる諸問題を検討する。」ことを目的としていた。受講者の大学院生や科目履修生から、これまでとは異なる視点からの授業であったので、非常に新鮮で大変勉強になり、それぞれの分野への理解が深まったとの評価をいただいた。当初の授業の目的は概ね達成でき、大学院生の個々の研究に参考になる授業であった。	
(3) 研究の内容	中国語母語話者日本語学習者の日本語の副詞や動詞の誤用のメカニズムに関する対照言語学的研究	
(4) 研究の成果	于康研究室が構築した『YUKタグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』Ver.12から日本語の副詞や動詞に関する誤用データを抽出し、対照言語学的研究という立場から、中国語母語話者日本語学習者の誤用メカニズムを明らかにすることを目的としていた。研究の結果として、ご担当の研究叢書の6つの節にまとめ、提出されている。2023年から浙江工商大学出版社から刊行される予定である。	